

第二回 高一国語

総評

高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
- (e) 「精緻」の誤りが目立った。

(二) (ハ)とする誤答が多かった。述べられていることと自体は間違っていないが、ここは「反証可能性」が話題となっている箇所である。

(三) 「採点基準」

「a 並立しない二つの仮説を検証する科学は、b 意見の相違が調整される日常の場とは異なり、c 両者の中間の仮説を認めない」と説明して —— 10点  
\* a 4点、b 4点、c 2点。

b c の要素は押さえているが、a を欠く答案が目立った。傍線部のように言える前提として、科学自体に内在する要素を説明する必要がある。

(四) (ハ)とする誤答が多かった。この選択肢はラカトシユ・イムレの批判を踏まえたものだが、傍線部

はさらにその先、クーンのパラダイム論を受けたものである。

(五) 「採点基準」

「a 仮説を論理的に再現可能な実験によって証明することと反証可能性を存立条件としつつ、b その時代のパラダイムを身につけた c 研究者が、自らの目的を達成するためのプロセスとして行っている」と説明して —— 14点  
\* a 8点、b 2点、c 4点。

傍線部の前の段落にある「結果としての科学ではなく、結果を得るためのプロセスとしての科学」という記述に依拠し、そこに肉付けして解答欄を埋めた答案が多かった。確かに落としてはならないポイントではあるのだが、そこだけに終始してしまうと、「現代における『科学』の定義と問題文全体の論旨も踏まえて」という設問の指示に当たっていないことになってしまう。筆者は「このような考え方は、従来、科学史、科学哲学で議論の対象となっていた『科学』の定義とは大いに異なるものでしょう」と述べてはいるが、しかし実際に研究を行う際は、筆者自身も現代科学のパラダイム内でそのルールに従っていることに注意したい。

(六) 誤答としては(ハ)が目立った。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a 自分も出ることを許されなかった重い奥伝に新

関が父と一緒に出ると聞き、b 新関が自分よりも父に近い立場にいると感じた」と説明して —— 12点  
\* a 7点、b 5点。

a の要素のみを書いたものが多かった。傍線部直前の「父と自分の距離、そして新関と父の距離を感じた」という記述から、父と新関、父と自分の距離について邦枝がどう感じたのかも説明に含めたい。

(二) これは非常によくできていた。

(三) (ハ)とする誤答が目立った。

(四) 「採点基準」

「a 微妙な音程のずれを感じ取れるのは娘だけだ」と思い至り、b 琴柱を直したのは邦枝に違いないと c 気づいた」と説明して —— 10点  
\* a 5点、b 4点、c 1点。

設問文が「寿久が『はっと息を呑んだ』のはなぜか」となっていることに注意したい。これはすなわち、解答として、寿久の頭の中にあることの説明を求めている、ということである。にもかかわらず、邦枝の頭の中にあることまで盛り込もうとすると、結果として字数が足りなくなり、必要な要素を落としてしまう。設問が求めていることのみをまとめられていたか、振り返っておこう。

(五) これはよくできていた。

(六) (ハ)を選ぶ誤答が多かった。もっともらしい選

択肢に惑わされないようにしよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せないと、活用の種類も活用形も正しく答えられない。間違えた人は、この、動詞を正しく抜き出すという段階でつまづいていたようである。

(二) いずれも基本かつ重要古語である。動詞なのに名詞の形で答えたり、逆に名詞なのに動詞の形で答えたりといった、細かなミスが目立った。そんなところで減点されるのはもったいない。注意しよう。

(三) 「採点基準」

「 a 隠瑜と死別した娘の悲しみが、 b 郭奕との結婚により c 少しでもいやされることを望む」と説明して — 10点

\* a 4点、 b 3点、 c 3点。

妻を亡くした郭奕をかわいそうに思って、という方向で解釈しているものがあつた。郭奕への同情もまったくないことはないだろうが、ここはやはり、娘にとってよかれと思つてやったこと、と解釈するのが妥当である。

(四) 間違えた人は、抜き出した部分を現代語訳してみ、解答として妥当かどうか確認しておいてほしい。たとえば、最後の四字を「ことわりなければ」の「なければ」ではなく「ことわり」としてしまつと、傍線部の説明にはならなくなつてしまふ。

(五) (i) 「採点基準」

「 a 親の言いつけどおり b 郭奕と結婚し c たとしても」と説明して — 6点

\* a 2点、 b 3点、 c 1点。

c の「ぬとも」にまで配慮して説明してほしい。

(ii) 「採点基準」

「 a 古き契りを b (私は) c いかで忘れん」を

「 a 前の夫との夫婦の契りを b 私は c どうして忘れるだろうか、いや、忘れないだろう」と訳して — 8点

\* a 4点、 b 1点、 c 3点。

「いかで忘れん」は反語だが、ここを「どうにかして忘れよう」と解釈する誤答が散見された。

(六) これは比較的よくできていた。

(四) 漢文

(一) いずれも基本的なものである。間違えた人は、この機会に覚えておくように。

(二) ここで間違えた人は、本文全体の大きな流れをとらえられていなかったことになる。人物関係を押さえることは、読解の基本中の基本である。

(三) (i) 「採点基準」

「 a 遊びて b 時を量らずして c 君の得る所と為る(と) 」と書き下して — 4点

\* a 1点、 b 1点、 c 2点。

(ii) 「採点基準」

「 a 遊んでいて時の経つのを忘れたので b あなたに捕らえられてしまった」と訳して — 4点

\* a 2点、 b 2点。

書き下し・口語訳とも正しくできた人は少ない。

(四)・(五)・(七) これらも、やや残念な結果であつた。

(六) (i) 「採点基準」

「 a 禍 b 將に c 汝に d 及ばんとす(と) 」と書き下して — 4点

\* a 1点、 b 1点、 c 1点、 d 1点。

(ii) 「採点基準」

「 a 桑樹が b 薪にされること」と説明して — 6点

\* a 2点、 b 4点。

白答が相当数あつたのは残念である。